

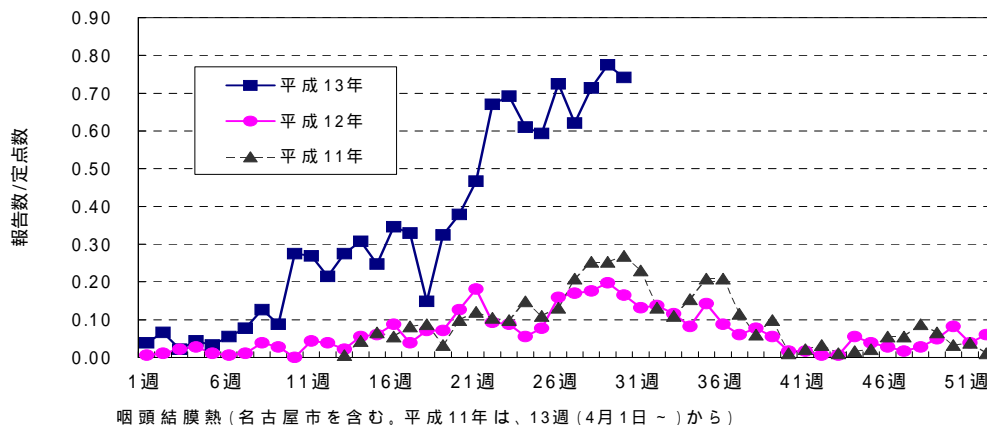
愛知県感染症情報

平成 13 年第 30 週（7 月第 4 週）

（コメント）

手足口病は、ピークをむかえています。咽頭結膜熱は全国的に流行中です（全国情報第 28 週）。また、流行性耳下腺炎も引き続き流行していますので注意してください。ヘルパンギーナは、ピークを過ぎたようです。腸管出血性大腸菌感染症が広域にわたり発生しています。

気温の高い日が続いており、体力も低下しやすく感染症にかかりやすい時期ですので十分注意してください。



（定点の先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 今週も手足口病流行
（一宮市 後藤小児科医院）
- ・ 病原性大腸菌 O166 1 歳男
手足口病、ヘルパンギーナの患者数が減る様子がまだありません。
（尾西市 城後小児科）
- ・ 麻疹 1 人は予防接種が未実施でした。
（一宮市 田中内科小児科）
- ・ 病原性大腸菌 O1 1 人、サルモネラ 1 人。
（犬山市 武内医院）
- ・ ヘルパンギーナ多発。アデノ様疾患も多し（2~7 歳 7 人）。
（岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック）
- ・ 手足口病の流行は続いています。ヘルパンギーナは少なくなってきました。麻疹 3 名あり（0~1 歳）、いずれもワクチン未接種

です。

(江南市 みやぐちこどもクリニック)

- ・ ヘルパンギーナが尚流行して居ります。
(春日町 丹羽医院)
- ・ サルモネラ (+) 59 歳男。カンピロバクター (+) 71 歳女
手足口病、ヘルパンギーナ減少
(新川町 三輪医院)

● 尾張東部地区

- ・ 伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎が多くみられます。
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナ流行中 (年長児にも認められます)。手足口病やや増加傾向。流行性耳下腺炎もまだみられます。今週はアデノウイルス感染症は少なかったようですが、成人の伝染性紅斑が目立ちました。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
- ・ 病原性大腸菌 O1 感染症 32 歳女
(豊明市 豊明団地診療所)
- ・ ムンプス ワクチン接種者 2 名
(半田市 医療法人林医院)
- ・ ヘルパンギーナ、手足口病などヘルペスウイルスの感染症が流行しています。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ ヘルパンギーナ多し。
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ 手足口病が多いです。
(小牧市 鈴木小児科)
- ・ マイコプラズマ肺炎がかなり多く見られます。
(小牧市 志水こどもクリニック)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 O1 (1 歳女、10 歳女)。カンピロバクター - 腸炎、病原性大腸菌 O6 5 歳男 (母親も下痢症状あり他院で検査中)
EB ウイルス感染症 2 歳男
麻疹 2 例は家族内感染で、25 歳の父親が初発。
(豊田市 星ヶ丘田中こどもクリニック)
- ・ 咽頭結膜熱、水痘、手足口病、伝染性紅斑が流行っています。
(豊田市 やふそ小児科)

- ・ カンピロバクター 2歳女、病原性大腸菌 O55 VT1・2(-)
2歳男
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ カンピロバクター 7歳、病原性大腸菌 O166 VT(-) 3歳
(幸田町 とみた小児科)
- ・ サルモネラ 04 2名(3歳女、12歳女)
カンピロバクター 12歳女
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ マイコプラズマ 10歳男
(三好町 三好町立三好病院)

● 東三河地区

- ・ 咽頭結膜熱流行中。チェックAd*は簡便で使いやすい。陽性例が多い。
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)
アデノチェック*：免疫クロマト法によるアデノウイルス抗原迅速検出キット。
- ・ ムンプスが続いています。高熱疾患もまだ多く見られます。
(田原町 かわせ小児科)

(1~3類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者7名

- ・ 刈谷保健所から報告の18歳女。7/12発病、7/16初診、7/19診定。
3歳女。7/22発病、7/22初診、7/24診定。菌型はいずれも O157
VT1・2(+)。
- ・ 安城保健所から報告の4歳女。7/20発病、7/22初診、7/24診定。
菌型は、O157 VT(+)。
- ・ 津島保健所から報告の22歳男。7/19発病、7/20初診、7/25診定。
菌型は、O157 VT1・2(+)。
- ・ 瀬戸保健所から報告の9歳男。7/23発病、7/24初診、7/27診定。
菌型は、O157 VT1・2(+)。
- ・ 西尾保健所から報告の7歳男。7/23発病、7/24初診、7/27診定。
90歳女。7/22発病、7/26初診、7/29診定。菌型はいずれも O157
VT1・2(+)。

(全数把握の4類感染症の発生状況)

急性ウイルス性肝炎B型患者1名。

第 28 週（7 月 9 日～7 月 15 日）の 4 類感染症の全国状況

流行性耳下腺炎は、最近 10 年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が続いており、都道府県別では石川県 5.9、佐賀県 5.0、福岡県 4.5 などの報告がある。咽頭結膜熱は、最近 10 年間の同時期と比較して最大の定点当たり報告数が 2000 年第 41 週から続いており、都道府県別では滋賀県 1.3、大分県、静岡県各 1.0 などの報告がある。麻疹、ヘルパンギーナ、伝染性紅斑、突発性発疹、流行性角結膜炎などの定点当たり報告数は、過去 5 年間の同時期と比較してやや多くなっている。

（Infectious Diseases Weekly Reportより抜粋

厚生労働省感染症研究所感染症情報センター感染症情報室提供）

2001年6月15日号(76巻24号)

愛知県衛生研究所企画情報部 (文責 磯村)

結核：結核が蔓延している諸国における進歩。WHOによる結核対策がこの数十年進展中：WHOによるDOT(Directly Observed Treatment Shortcourse:鏡検による活動性患者の発見、短期化学療法、連日保健センターに本人を来所させて内服)作戦実施がアムステルダム宣言として2000年に開始されたが2000年時点の状況は結核患者の発見率は70%、治癒率は85%であった。本報告は2005年における結核根絶を目標としてWHO、各国政府などのODAとNGOの協力体制で進展している概況である。

世界の急性弛緩性麻痺(ポリオ)：2000-2001年5月末の届出数。野生株ポリオ患者数で目立つのはインド278、アフガニスタン31、パキスタン214、ソマリア46、アルジェリア55、コンゴ共和国28、ナイジェリア28などであるが、インド、パキスタンにおいて臨床的に急性弛緩性麻痺患者と診断された例からポリオ野生株陽性者はほぼ全例であるのにたいしてアフガニスタン、アフリカ諸国の分離率が低いのが問題となる。弱毒生ワクチン類似株が分離されて問題となった中米ドミニカの麻痺例は11例となっている。欧州地区、西太平洋地区では野生株ポリオは分離されていない。

インフルエンザ：2000年6月。ブラジル：B型。チリ：A型(H1、H3)。ノルウェー：B型。パラグアイ：A型とB型。

01年6月8-14日届出。黄熱：ペルー。コレラ：ベリズ、ボリビア、コロンビア、コスタリカ、エクアドル、仏領ギアナ、ガイアナ、ホンジュラス、メキシコ、ニカラグア、パナマ、スリナム、ベネズエラ。

2001年6月22日号(76巻25号)

クリミア・コンゴ出血熱：旧ユーゴ・コソボ共和国。5月18日-6月7日に急性出血熱27例(死亡4例)発生。PCRによるウイルス学的検索とIgM抗体法で確認。WHOはコソボ当局と協力して調査実施中。

感染症媒介性昆虫(第一部)：蚊が媒介性昆虫として最も重要であるが、蠅などの吸血性昆虫により媒介される疾患も多い。本報は熱帯地区を中心とした幅広い総説であるが、特に一般に広まっている媒介昆虫に関する誤解を強調している：1.蚊の数は媒介疾患発生のよい指標になるが必ずしも実際の発生と平行しない。蚊が少ないようでも面倒がらずに蚊帳のなかで寝ること。2.丁寧に管理された芝生でも蚊は発生する。3.注意すべきは蚊が活動する夕方だけでなく夜間や早朝でも、時には昼間でも蚊は活動する。4.家畜による蚊の増殖が認められる。5.蚊によるHIVの伝播は起こりえない。

薬剤耐性HIVの監視：薬剤耐性HIVの監視網が国際エイズ学会の協力のもとに2000年10月から開始された。

インフルエンザ(01年6月)：チリ。A型。

01年6月1-7日届出。コレラ：コンゴ共和国、マヨット、モザンビーク、南アフリカ、香港、カザフスタン、ドイツ(輸入例)。黄熱：象牙海岸。